

大学キャンパスの外部コモンスペースに関する研究

—三重大学共通教育ゾーンに着目して—

A Study about Outdoor Common Space in University Campus

—Pay Attention to Academic Education Zone in Mie University—

5.建築設計画 -3.計画基礎 -t.環境行動・行為/経路探
索・使われ方
大学キャンパス 外部コモンスペース 滞在行動
共通教育ゾーン

正会員 ○中山裕章*
同 加藤彰一**

NAKAYAMA Hiroaki
KATO Akikazu

1. Abstract

The student life in university campus is included in not only the studies in lecture room and laboratory but also the activity in the other campus facilities like outdoor common space.

So, outdoor common space is essential to take a rest for a change of pace, to deepen friends and acquaintances for student.

Therefore, on this study, analyze outdoor common spaces in Campuses. The purpose of this study is to show adequate composition of outdoor common spaces to stay behavior.

2. はじめに

大学キャンパスでは、機能的に様々な建物が必要とされ、それと同時に、外部空間が生じる。このような外部空間は、建築を設計した後に残された単なる屋外空間として捉えるのではなく、積極的にデザインする対象として考えられるべきである。このように、キャンパスの外部空間はある意味では最もキャンパスらしさが具現化されている場所の一つであるといえる。

また、大学キャンパスにおける学生生活は、講義室や研究室における学業だけではなく、大学での経験を豊かなものにする他のキャンパス施設(主に外部コモンスペース)におけるアクティビティも含まれる。

よって、キャンパスの外部空間は、学生が休息や気分転換をしたり、思索したり、交友関係を深めるには不可欠な場所である。そこで、外部空間の利用方法や振る舞いの原因を明らかにすることを目指し、キャンパスの外部コモンスペースにおける学生のアクティビティについて研究していく必要がある。

そこで、本研究では大学キャンパスの外部空間の分析を行い、滞在行動に適した外部空間の構成を明らかにすることを目的とする。また、コモンスペースの現状を調査することにより、計画に必要な知見を得ることも目的

とする。

また、既往研究では、観察調査及びアンケート調査により、共通教育ゾーンの利用実態や学生の居場所に関する研究がされており、主に建物内での学生の利用実態、居場所についての考察がされています。

しかし、共通教育ゾーンでの居場所として、建物内外を切り離して考えるのではなく、建物内外を含めた学生の為の居場所作りが重要だと考えられる。そこで、本研究では共通教育ゾーンの外部コモンスペースに着目し、学生の利用状況や居場所について研究を行う。

三重大学の概要を表1に示す。

表1 大学概要(2010年5月1日現在)

大学名	三重大学
学校種別	国立
設置	1949年
所在地	三重県津市栗真町屋町
学部	人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部
総面積	約53万㎡
生徒数	学部6167人、大学院1253人、専攻科6人
教員数	755人

3. 調査概要

調査はマッピング調査、ビデオカメラによる撮影、写真撮影による滞在行動の場面抽出を行なった。

- ・調査場所：三重大学共通教育ゾーン 外部スペース
- ・調査日：10月29日(金)
- ・調査時間：11:40～13:20、14:00～15:00
- ・調査員：6名

マッピング調査15分+休憩・準備5分を1セット(20分)として、計8セット行なった。

* 三重大学大学院工学研究科 博士前期課程

** 三重大学大学院工学研究科 教授 博士(工学)

Graduate Student, Graduate School of Eng., Mie Univ.

Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ.

共通教育ゾーンとは、共通教育棟(共通 1、2、3、4 号館)、第一体育館、図書館、第一食堂によって囲まれたゾーンである(図 1)。今回は、その中でも滞在者が最も多い第一食堂回りの外部スペースを調査対象とした。以下に調査範囲の配置図を示す。また、調査にあたり、調査範囲を A～E の 5 つのゾーンに分けた。(図 2)

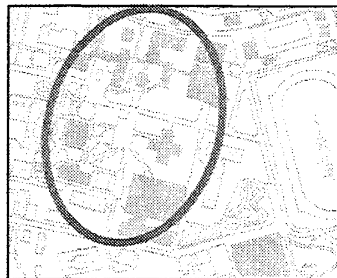


図 1 共通教育ゾーン

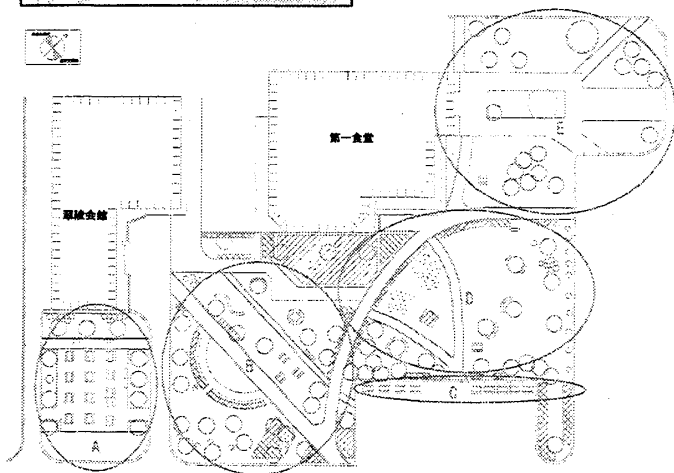


図 2 第一食堂回り配置図

図 3 A～E ゾーンにおける体位別滞在者数

ゾーン 時間	A		B		C		D		E	
	立位	座位	立位	座位	立位	座位	立位	座位	立位	座位
11:40-11:55	1	13	0	2	7	4	0	0	6	0
12:00-12:15	7	21	13	6	3	12	3	0	18	0
12:20-12:35	4	29	6	16	3	19	0	3	8	0
12:40-12:55	5	20	2	11	0	15	0	4	7	0
13:00-13:15	0	2	0	0	0	1	0	1	2	1
体位別合計	17	85	21	35	13	51	3	8	41	1
合計	102		56		64		11		42	
14:00-14:15	1	4	0	4	0	0	0	0	2	0
14:20-14:35	1	6	0	2	3	0	0	0	3	0
14:40-14:55	1	7	1	0	2	0	0	0	1	0
体位別合計	3	17	1	6	5	0	0	0	6	0
合計	20		7		5		0		6	
総合計	122		63		69		11		48	

4. 調査結果

調査により、313 人の滞在者のサンプルを得た。

時間毎の滞在者数を見ると、当然のことながら、昼休み(12:00～13:00)を含む 11:40～13:20 の時間帯の方が 14:00～15:00 の時間帯に比べ、滞在者数が多く、また昼休みとそれ以外の時間では大きく滞在者数に差があることが分かった。(図 3)

ゾーン別に見ると、11:40～13:20、14:00～15:00 の両時間帯とも A ゾーンが最も滞在者が多く、D ゾーンが最も少ない(図 4)。A ゾーンはテーブル・ベンチが多く設置されており、グループでの利用に適しているが、D ゾーンは樹木の回りのサークルベンチが主な着座場所となる為、グループでの利用にあまり適していないことが理由として挙げられる。A、C ゾーン共に多くのテーブルとベンチが並べられているが、A ゾーンのそれらは容易に動かすことが出来、利用者に多様な使い方を与える。一方、C ゾーンのそれらは容易に動かすことが出来ない。また、A ゾーンには灰皿があり、喫煙者に好まれるゾーンであると言える。このようにいくつかの滞在行动を契機づける要素があり、それらの要素が増えれば増えるほど、より滞在场所として好まれることが分かった。

滞在体位別に見ると、A～D ゾーンは立位よりも座位での滞在が多く、E ゾーンのみ、座位よりも立位での滞在が多い。この理由としては、E ゾーンはベンチ等の設置が少ないことが挙げられる。

総滞在者数に占める男女の割合は男性 56.2%、女性 43.8%で、やや男性が女性を上回った。B、C ゾーンでは、女性数が男性数を上回る結果となった。(図 5)

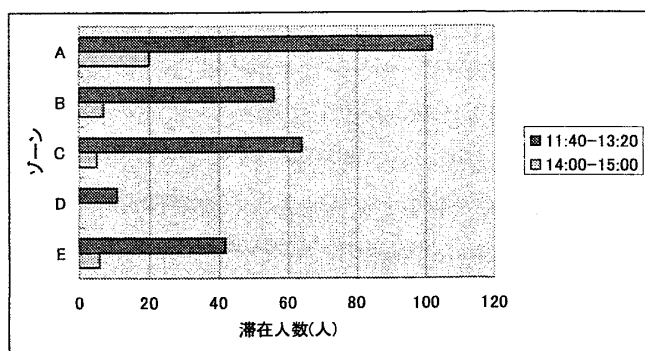


図4 ゾーン別滞在人数

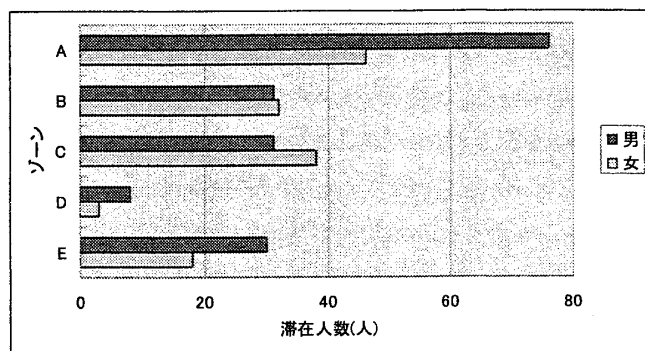


図5 男女別滞在人数

<A ゾーン>

A ゾーンは、5つのゾーンの中で最も滞在中者が多く、テーブルやイスを動かしてのグループでの飲食による滞在中者が多く見られた。また、灰皿が設置されている為、喫煙による滞在中者も多く見られた。(図6)

花壇の縁への着座滞在中も見られた。(図7)

このゾーンにはゴミ箱が無い為、ゴミ箱の設置により、使いやすさが向上すると考えられる。

最も滞在中者が多かった12:20~12:35の時間帯のプロット図を下に示した。(図8)

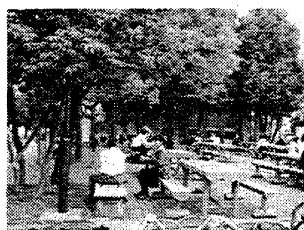


図6

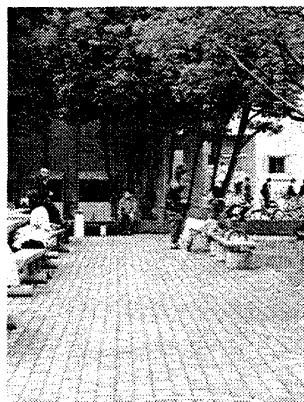


図7

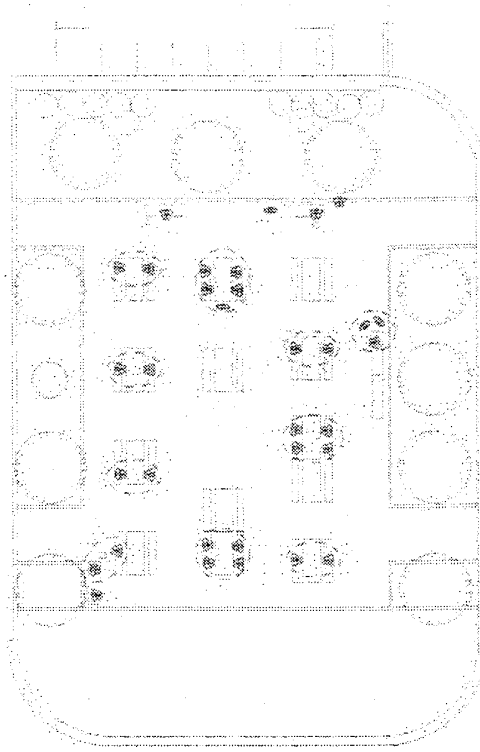


図8 Aゾーンプロット図(12:20~12:35)

<B ゾーン>

図9に見られる樹木に囲まれたベンチは一人での滞在中者が多く見られた。また、グループでの飲食による滞在中者も多く見られた。(図10)



図9



図10

<C ゾーン>

Cゾーンでは、学祭での喫茶店の宣伝も兼ねて、ジャズサークル(Sunny All Stars)によるジャズの演奏(12:15~12:45)が行なわれており、非日常的ではあるが、地べたに直接腰を下ろしての滞在中や写真撮影を行う人や演奏を眺めるといった滞在中者が見られた。(図11、12)



図11



図12

図13にCゾーンにおけるプロット図を示す。

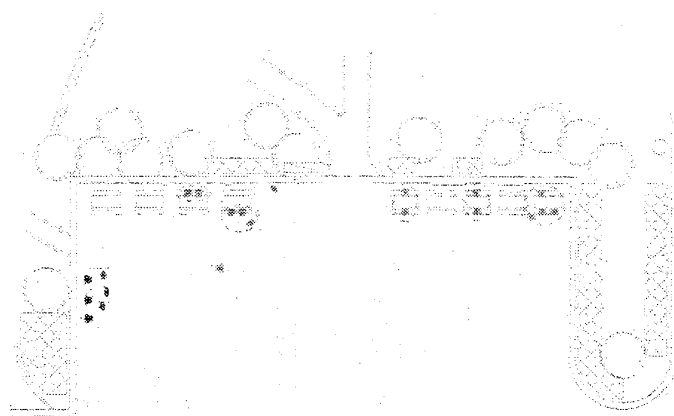


図13 Cゾーンプロット図(12:00～12:15)

<Dゾーン>

Dゾーンは、5つのゾーンの中で最も滞り手が少ないゾーンである。樹木の回りのサークルベンチでの一人での滞り手が見られた。

また、Cゾーンと同様にジャズの演奏を聴く人が見られた。(図14)

樹木の回りにサークルベンチが設置されているが、あまり利用者がいないのが現状である。そこで、直接腰を下ろせる芝生空間の整備をすることで、他のゾーンとの違いを出し、滞り手の増加を促進することも考えられる。



図14

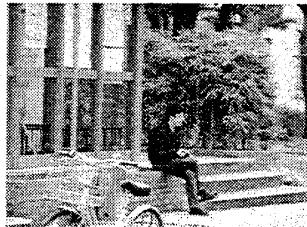


図15

<Eゾーン>

Eゾーンは、テーブルやイスがあまり設置されていない為、滞り手は比較的少なかった。また、待ち合わせによる滞り手が見られた。(図15)

段差(花壇の縁)、灰皿という滞り行動を契機づける要素があり、それらの要素が増えれば増えるほど、より滞り場所として好まれることが分かった。

三重大学全体に言えることではあるが、直接、腰を下ろせる芝生空間が無い為、直接、腰を下ろせる芝生空間の整備をすることで、さらに多様な滞り・利用を促進できると考えられる。

また、芝生空間と同様に親水空間も無い為、親水空間の整備も行なうことで、コモンスペースを快適で、魅力

的なものに変え、リラックスできる要因となるため、憩いの空間が創出できると考えられる。

また、Bゾーンのベンチ等、壊れかけているベンチ等のファニチャーの更新を行なうことで、より好まれる外部コモンスペースの実現ができると考えられる。

5. まとめ

本研究では、滞り行動の観点から三重大学の共通教育ゾーンの外部コモンスペースにおいて調査・分析を行なった。その結果、A、Cゾーンでの滞り手が多いことが分かった。両ゾーン共に多くのテーブルとベンチが並べられている。加えて、Aゾーンには灰皿があり、喫煙者に好まれるゾーンであると言える。このようにいくつかの滞り行動を契機づける要素があり、それらの要素が1つ2つと増えれば増えるほど、より滞り場所として好まれることが分かった。

今後は、共通教育ゾーンや大学全体における新しいコモンスペースの在り方の提案(レイアウト提案)を目標に滞り行動やウェイファインディングの観点から、調査・研究を進めていきたいと考えております。

<三重大学における課題>

- ・直接、腰を下ろせる芝生空間の整備
- ・未整備の親水空間の整備
- ・ファニチャーの更新

6. 今後の研究課題

今回は、10月に調査を行なっており、一年間における一例にしか過ぎない。今後は様々な季節で調査を行う必要があると考えられる。また、共通教育ゾーンを研究するためには、外部コモンスペースを研究対象とするだけでなく、その周辺の施設や活動場所の利用状況も把握しなければならない。

■参考文献

- 1)大学キャンパスにおける共通教育ゾーンに関する研究—居場所としての視点から見る共通教育ゾーンの位置づけ及び機能構成— /孫イブン、今井正次、木下誠一
- 2)三重大学 HP <http://www.mie-u.ac.jp/>
- 3)日本建築学会 1993 年度日本建築学会大会(関東)研究懇談会資料 キャンパス外部空間論
- 4)Campus Ecologist www.campus ecologist.org/cen/v13n4.htm